St.Luke

2013 The annual report 2013.1.1▸2013.12.31

医療法人 **セント・ルカ**

セント・ルカ産婦人科

セント・ルカ生殖医療研究所

目　　次

巻頭言 ―― 1

一年を振り返って
- 医局 ―― 3
- 心理専門相談室 ―― 4
- 看護部 ―― 5
- 研究室・培養室 ―― 7
- 受付 ―― 9
- 情報処理室 ―― 11
- 厨房 ―― 13

診療統計
- 開院から2013年までの成績
  - 当院の患者数・妊娠に至った主たる有効治療 ―― 16
  - 妊娠の転帰・出産結果 ―― 17
  - 初診後妊娠までの期間 ―― 18
  - 不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断 ―― 18
  - 腹腔鏡検査後妊娠までの期間 ―― 18
  - IUI（選別精子子宮内注入法）による回数別妊娠率 ―― 19
  - ART（生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT）による妊娠 ―― 19
  - 35歳未満・体外受精1回目の妊娠率 ―― 19
  - 妊娠数 ―― 20
- 2013年 一年間の成績
  - 外来患者数・初診患者数 ―― 22
  - 不妊治療費助成金申請内訳 ―― 23
  - 妊娠の内訳：妊娠に至った主たる有効治療・妊娠の転帰 ―― 24
  - 出産結果・異常児の詳細 ―― 25
  - 手術・入院数 ―― 26
  - ART（生殖補助医療）による妊娠 ―― 27
  - ART（生殖補助医療）による出産および出生児の状況 ―― 27

セント・ルカ産婦人科 一年のあゆみ ―― 30
- 機器導入 ―― 31
- 行事一覧 ―― 32
- 論文一覧・著書（共著）一覧・翻訳一覧 ―― 40

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明 ―― 41

スタッフ配置 ―― 44

病院概要 ―― 45

巻　頭　言

宇津宮　隆史

2013年も様々なことがあったが、最大トピックはやはり第31回日本受精着床学会総会・学術講演会を別府ビーコンプラザにて開催させていただいたことであろう。参加者1,036名と、地方での開催にもかかわらず多数の方にご参加いただいたことは感謝に絶えない。サイエンティフィックアドバイザーとして、大分大学医学部産科婦人科学講座 楢原久司教授、河野康志准教授、そして宮川勇生名誉教授にご指導いただきながら、テーマを「これからの生殖医療」、サブタイトルとして「生まれてくる子どものために」を掲げて、生殖医療の本質を考え直す機会としたつもりである。

生殖医療は近年、急激な進歩の結果、施設の整備、スタッフの充実、技術の向上などが広くいきわたり、一定の成果をあげられるようになってきた。その一方、社会的問題、倫理的問題に関する懸案については、生殖医療の華々しい成果の陰に隠れて論議が片隅に追いやられている感がある。たとえば第三者の関わる非配偶者間生殖医療であり、着床前診断、出生前診断であり、また、悪性腫瘍患者に対する生殖医療の関与や、不妊にも関連のある性教育への取り組みである。

われわれはこの全国規模の学会を主催するにあたって、これらの問題を広く討議することにより、生殖医療が社会に対する責務の一部を担わねばならないことを再確認する機会と考えた。それらはそれぞれシンポジウムとして、また、がん患者と生殖医療については市民公開講座としてプログラムを組み、多数の参加者と意見交換する場ができた。

特に非配偶者間生殖医療のシンポジウムにおいては、自民党総務会長の野田聖子衆議院議員、また、DOGの会の石塚幸子さん、加藤英明先生にも来ていただいた。座長はわたしと慶應義塾大学 吉村泰典先生が務めた。また、がん患者と生殖医療の市民公開講座には、骨髄バンク推進連絡協議会会長の大谷貴子さんをはじめ、その関連の第一線の方々に来ていただき、活発な討論が行われた。これらが今後も大きな話題として各学会、研究会などで広く取り上げられるようになることを期待するものである。

最近、このような生殖医療の発展とともに、今までの「妊娠率」「新しい技術」「初めての成功」「新しい設備」などの話題から、その次の、これらの実績を広く社会に還元する時期に入ったように思われる。われわれの行っている生殖医療はただ単に不妊夫婦の望みを叶えることを手助けすることだけでなく、その結果として生まれてくる「子ども」のことまで考えた医療を行わねばならない。自民党が非配偶者間を含む生殖医療に関する法整備を議員立法で行う構えを見せているが、その中には生まれてくる子どもにとって最も重要な「出自を知る権利」はなおざりにされている。これに対しては、わたしも自民党古川俊治参議院議員に資料も加えて意見書を提出したが反応は無い。さらに何らかのアクションが必要である。

がんと生殖医療に関しては、最近は血液がんに限らず、乳がんやそのほかの悪性腫瘍、さらには悪性疾患に限らず様々な疾患との関係で卵子保存を希望する患者が各方面から声を上げるようになってきた。それに関しては、今後の生殖医療を担うわれわれの新しい分野の拡大と捉え、体制を整備していく必要があり、2014年のセント・ルカセミナーの一環として再び公開講座を開催することとした。今回は日本産科婦人科学会前理事長の吉村泰典先生と大分市にある、うえお乳腺外科の上尾裕昭先生に座長をお願いし、先の公開講座に来ていただいた先生方を中心にプログラムを組んだ。外科関係からは九州がんセンターの大野真司先

生、泌尿器科からは獨協医科大学の岡田弘先生、そして産婦人科からは聖マリアンナ医科大学 日本がん・生殖医療研究会の鈴木直先生などである。

これは今後も持続的にニーズはあると思われ、かつ患者は深刻な背景を背負っていくつもの決断を迫られる場面が想定されるため、しっかりとした体制を構築しておく必要がある。それも、各県にひとつは必要であろう。加えて産婦人科からさらに血液内科、乳腺外科などとも連携が求められる。

性教育に関しては、不妊予防もさることながら、わたしが関係している児童養護施設「別府平和園」の子どもたちに対する教育の一環として従来から取り組んできたが、それをさらに別府市民、大分市民、とくに教育界を巻き込んでの活動に発展させるべく、現在計画中である。講師としては池田クリニックの池田稔先生と京都大学の木原雅子先生に来ていただき、午前中は別府平和園で子どもたちと職員へ、また午後は大分市で教育関係者および市民も募っての公開講座を計画した。

まだまだ考えねばならないことがある。それは、新型出生前検査の非侵襲的血液検査（NIPT）である。これはダウン症をターゲットとして広く妊婦をスクリーニングすることで、2014年6月12日現在、7,700名ほどが検査を受け、そのうち陽性の人で確定検査を受けずに人工妊娠中絶を行った人が2名あったとのこと、この検査体制の不十分さが浮き彫りになった。特にカウンセリングの不十分さは以前から指摘されていた。

また、特別不妊治療費助成金の制限については、申請者が多くて予算不足となり、平成28年度以降は、年齢制限43歳未満とされてしまった。これも、子どものことであるから、かつて釘宮磐大分市長が「この助成金は“国勢”に関係するものであるから、国が責任を持って推進すべきである」と言われたことがよみがえる。すなわち、助成金の予算は国家予算の聖域とも言うべき位置にあるはずで、福祉厚生予算内から都合するのではなく、もっと広い立場からみて交付していただきたいものである。将来の日本の国勢に影響することであるから。

われわれの関与する生殖医療はただ不妊カップルのためだけでなく、それによって生まれてくる子ども、また、その子どもの成長、そしてその社会環境まで関わりのある分野である。その点を見逃さずに視野を広く保ち、われわれのなさねばならぬことを正しく把握し、プロフェッショナルとして社会に働きかけていく姿勢が求められている。

一年を振り返って

医　局

河邉　史子

波乱万丈な2013年度が終わった。セント・ルカ産婦人科にとっても、私個人にとっても、2013年は忘れられない年になりそうだ。

2013年１月は第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の準備一色で始まった。毎週のように診療が終わった後に受着会議が開かれ、気が付いたら夜９時を過ぎていることも多かった。院長以下スタッフ全員、日頃の業務に加えて学会の準備作業をいくつか掛け持ち、泣いたり笑ったりしながら毎日を過ごした。

私にとって大変だったのは、10数年ぶりに学会発表、しかもシンポジウムでの発表をすることになったことだった。本来私がシンポジストなど、考えられないことであったが、これもセント・ルカ産婦人科にいるからこそ頂いたすばらしい機会であった。スライドを作ってプレゼンテーションするのは学位をいただいた2003年以来だったので、まず、パソコンの使い方から始まり、当院のデータベースから必要なデータを取り出す方法や、統計処理の仕方など、ゼロから覚える必要があり、時間がいくらあっても足りなかった。一日の仕事が終わり、いったん家のことを済ませて、また医局に戻って学会準備をする日も多かった。今振り返ってみると、当時、院長をはじめ、スタッフ全員よく体調を崩さず、毎日を乗り切ったなと思う。

あれだけの準備時間をかけたにもかかわらず、受精着床学会本番はあっという間に終わってしまった。準備中に聞きたいと思っていた演題もほとんど聞けずじまいであったが、閉会式の時、挨拶をする院長を見ながら充実した達成感と感動を味わった。自分の発表中に、緊急地震警報が会場内の携帯から鳴り出して、一瞬何が起こったかわからず呆然としてしまったのも、今となっては思い出の一つである。

一方、学会直前の７月には、大学を卒業して20年を過ぎた記念に同窓会があった。忙しい中鹿児島に帰郷し、久しぶりに同級生と会い、それぞれに頑張っているみんなからたくさん元気を貰うことができた。学生時代からは想像しなかった科に進んだ友人もいて楽しく話が弾んだ。残念ながら亡くなった同級生もあり、20年という時間の流れをしみじみと感じることになった。また今年１月には中学の同窓会もあり、こちらは30数年ぶりに会う友人もいて、そろそろ人生の折り返しに来たのかな、という思いを強くした。

今が折り返しとすれば、これからどんな生き方をしていくべきなのだろう、と考えながらまた新しい１年が始まった。

一年を振り返って

心理専門相談室

稗田　真由美

当院へ就職し、一年が経過した。院長先生はじめ、河邉先生、他多くのスタッフに支えられながらの一年だったと振り返る。2013年８月までは、前任の上野先生の指導の下、患者さんの悩み、不妊治療患者の精神構造、また雰囲気など陪席をさせて頂きながら学ぶことができた。カウンセリング技法においては、自分のクセを見直したり、基礎的関わりや話の深め方など今までの経験を振り返りつつ、先生からも多くのエッセンスを吸収させて頂きながら、とても貴重でまた贅沢な時間を過ごさせて頂いたことを感謝している。

私の臨床経験の中でも、重く、苦しく八方塞がりの問題を抱えている方々が多かったと感じている。そして、不妊治療の現場もその基本的な部分は似ているところもあるが、何かまた違う感覚もある。それは一体何だろうか？

不妊治療の社会的認知は昨今のニュースで広くなっていると思われるが、現実は、子どもができないという悩みを抱え、孤独に治療を続けている女性に多く出会う。社会的には何不自由のない生活を送る一方で、自分の力だけでは抜け出すことのできない暗い闇の中にいるという状況が一つある。そのようなケースに対し、具体的な解決策など当然見当たらず、今まで使っていた解決志向的な技法などではなかなかあてはまらないことを実感した。悩みを抱え泣き崩れる患者さん達へどのような態度で臨めば良いのか…技法と自分の人間的な深みや感性をも問われる状況とを葛藤していた一年であったと思う。

臨床心理士として医療の現場に身を置いたことはあるものの、分野が違うので一からその領域のことを勉強していかなければならないという気持ちであった。基本的には、好奇心旺盛なので様々な分野のことを勉強することは、さほど苦痛ではなく、むしろ楽しみだったりする。生殖医療についても、過去にルカセミナーや、他勉強会への参加、また新聞の記事やインターネットなどの一般的なことについて関心を持って読んでいたつもりだったので、なんとかなるのかなー？ という軽い気持ちである私が間違っていたと、初日にノックアウトされたことは想像に難くない。最先端の医療の仕事内容、業界内が発信している最新のトピックス、専門用語など最初は暗号にしか聞こえず、社会的には様々な家族の形態が既に誕生していることを聞き、これからどういう家族のあり様になっていくのかという恐怖さえ感じた。

以前のケースで、養護施設で育ち、養子として家庭に収まったが養親の思うような子どもにはなれず「(施設へ) 返品された」物のように扱われた…。という話を聞き深く傷ついていた。「彼らは優秀な子どもと社会に対しての体裁がほしいだけ」という言葉が印象的だった。院長が常々言っている、「子どもを授かることだけが目的ではなく、二人で子どもを社会人として送り出すこと」というフレーズに深く共感した。子どもを授かるだけでなく、“愛情を持って育てる”ということはどういうことなのか。不妊治療は子どもを迎えるための夫婦の愛情を再構築していくための準備段階であると仮定すると、この臨床で関わることの意義はとても大きいと考える。不妊治療の患者という目線ではなく、目の前の男女がどのような環境の中で苦しみ、不安を抱えているのか、また今後の家族計画をどのように考えているのかなど丁寧に聴きながら理解を深めていくこと。と同時に、生殖医療に関しては、まだわからないことばかりなので他領域のことを勉強させて頂きながら、自分の中の疑問や感覚を大切に、また形にしながら日々研鑽していきたいと思う。

一年を振り返って

看護部

後藤　裕子

一年を振り返る時期が訪れ、2013年はどんな年だったのか思い起こしてみました。

台風・竜巻・集中豪雨などの自然災害が発生し、多くの支援の輪が広がったことや、2020年東京五輪開催が決定、富士山の世界遺産登録、W杯出場決定など日本中が輪になって歓喜に沸いた年でした。

そんな出来事があった中、2013年の「今年の漢字」一文字は「輪」でしたが、セント・ルカ産婦人科もまさに「輪」がふさわしい１年ではなかったかと思います。

2013年は数年前から準備に取り掛かっていた、院長の理念が詰まった大会「第31回日本受精着床学会総会・学術講演会」が開催された年でした。

この学会を成功させるために、当院のスタッフのみならず、サイエンティフィックアドバイザーとしてご指導いただいた先生方、業者の方々など色々な方達に支えられ学会は無事に成功を収める事が出来ました。

この学会のメインテーマである「これからの生殖医療 ―生まれてくる子どものために―」は生殖医療に携わる者にとっての最終的な目標です。「生まれてくる子どものために」多くの方に正確な情報を伝え、理解していただけるような内容として、看護部では、非配偶者間生殖医療について、卵子の老化についての発表をさせていただきました。報道でもあったように卵子が老化するとは知らなかったと言う人が多い中で、適切な情報を伝え発表できたと思います。

非配偶者間に関しては、患者さん自身の関心度が高いことが伺えましたが、何を選択したらよいのか未だ模索状態であることも分かってきました。この問題に関しては、私たちが今後もしっかりと考えていかなければと思います。それに伴い看護部では、日々進歩する医療に対応した確実で専門性の高い看護の実践を目指して行く必要性を実感しています。

私自身も看護師長として丸３年の月日が経過しました。初めは戸惑いと不安で無我夢中の日々を送ってきましたが、最近は少しずつ周りが見えてくるようになり、人材育成・教育に力を入れ、自分なりのスタンスで仕事をこなしています。

看護師長として任務がきちんと果たせているか不安ですが、院長の理念のもと、他部門と協働し、「輪」になって患者さんを中心とする「チーム医療」を推進し、新たな１年を歩んで行きたいと思います。

一年を振り返って

看護部

越光　直子

春の風が吹き始め、その風に乗った桜の花吹雪を目にすると、新年度が始まったことを実感します。

この１年を振り返ってみると、やはり2013年８月に行われた第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が一番に思い出されます。院長の指示の下、準備に準備を重ね、セント・ルカのスタッフ全員で力を合わせて学会を終えることができました。

このような大きな学会が裏側ではどのように取り仕切られ、準備され、たくさんの方々が関わって開催されているのかを実際に目で見て、肌で感じることができ、この経験が私自身にとっても、とても実になる大きなものとなりました。一つの事が、たくさんの力が合わさることでもっとよりよいものになるということが実感でき、これは、看護師として日々の業務や患者さんとの関わりにも繋げていけることでもあると思いますので、この経験をここで終わらせることなく、生かしていけるように今後も努力していきたいと思います。

また、この学会で院長が掲げたテーマが「これからの生殖医療 ―生まれてくる子どものために―」でした。生殖医療の進歩で、たくさんの情報があり、関心も高まっています。この学会で私も非配偶者間生殖医療についての発表をさせていただきました。発表の最後に、「今後も生まれてくる子どもの幸福を視野にいれた援助を行っていきたい」と結びました。この医療に関わる一人として、今後もこの信念を持って患者さんに関わり援助していきたいと思っています。

さて、私はセント・ルカに入職して10年が経過しました。この10年間でたくさんの貴重な経験をさせていただきながら日々を過ごしてきました。この10年で自分自身どれだけ成長できたのだろうかと思い起こせば…反省のほうが大きいのですが、入職時の気持ちをもう一度しっかり思い起こして、初心を忘れず、今後も日々研鑽を重ね看護を行っていきたいと思っています。

最後に、セント・ルカの看護部といえば「力強さ」です。この一年も、後藤師長を筆頭にパワフルな看護部として、各部署のスタッフと力を合わせて、全力で患者さんのために努力していきたいと思います。

一年を振り返って

研究室・培養室

大津　英子

先日、新聞のコラムでタケノコはどうして生長が早いかという記事があり、興味深く読みました。答えは、「タケノコには節があるから」でした。通常植物の先端にのみある生長点（中学校の理科で習いましたが、覚えていますか？）が節ごとにあるから、通常の植物より生長が目覚ましいということです。「雨後の筍」という言葉があるほど生長が早い理由に納得しました。

受精卵の成長の早さには目を見張るものがありますが、これも休止した細胞は一つもなくすべての細胞がいわば成長点にあるからか、とつらつら考えていましたら、培養室スタッフの顔が浮かんできました。

この一年間に、副室長熊迫陽子が胚呼吸量をテーマとし工学博士を、主任佐藤晶子が生殖補助医療とインプリンティングをテーマとし医学博士を取得しました。私自身は2009年に着床前診断をテーマに工学博士を取得していますので、３人の博士が誕生したことになります。日本中で３人の博士を擁する培養室は初めてではないでしょうか。二人に太陽の光、水を与えてくださいました山形大学教授　阿部宏之先生、東北大学教授　有馬隆博先生に心より感謝申し上げます。

さらにもう一人、着床に関する研究をより深めたい（着床率を上げたい!!）と大学院を目指しているスタッフがおり、まさに生長点という勢いを感じさせてくれます。

2013年は、院長を大会長とし、第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が別府市で開催されましたが、一人ひとりが係を全うし成功裏に終えることができました。

大きな行事でなくても、月に２度ある培養室ミーティングはかなり活発に意見が出ます。上下関係を超え厳しい指摘も入ります。反面、レーザーが欲しい、タイムラプス装置がさらに欲しい、ドライインキュベーターが欲しいという声もそれぞれから上がってきます。それらをすべて呑んでいただいた院長先生、事務長である奥様、本当にありがとうございました。

平均勤続年数が15年を超え、熟練スタッフばかりであることは自慢できる点ではありますが、ともすれば様々な問題点も浮上してきます。一人ひとりが生長点であることを意識して、宇津宮院長の叱咤激励という雨にうたれて、雨後の筍のようにニョキニョキと成長し続ける培養室でありたいと思います。

一年を振り返って

研究室・培養室

熊迫　陽子

例年この時期、ラボスタッフは学会の抄録作成を終え、発表準備の最中にいます。４月の日本生殖医学会九州支部会を皮切りに、５月の日本卵子学会、そして次の７月の日本受精着床学会は、発表にも少し慣れてきた頃に開催される学会でもあります。

しかし2013年は、例年とはまるで違っていました。第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の大会長を院長が務め、別府市で開催されることになり、１から、いえ、学会の組織や運営など分かっていなかった私たちにとってはマイナスから準備が始まったように思います。今こうして振り返ることができるのが不思議な感じがします。

私は、市民公開講座「がん患者と生殖医療」の準備をさせていただきました。一般の方やがん治療に携わる医療関係者の方々に、一人でも多く足を運んでいただくためにどうすればよいか、毎日考えていたように思います。そのために何度もミーティングを重ね、お世話になっている業者の方々にもご協力をお願いしました。また、この大会はシンポジウムやワークショップを例年より多く組み込んでいて、ラボスタッフや看護師からも多くの発表をさせていただいたので、自分たちの発表の準備にも苦労したことが思い出されます。

こうして実際にひとつの大会を作り上げる立場になってみると、過去の大会の内容を調べることが多かったのですが、この生殖医療関連の研究は毎年新たな成果が発表され、トピックが持ち上がっていることが分かります。全国区レベルでの学会は、そのような研究について深く勉強することができる絶好の機会ではありますが、2013年の本大会では、一方でそういったものに左右されない、「必ず守らなければいけない普遍的なものがあること」それを強く感じることができる大会であったと感じました。

院長がこれを機に全国の生殖補助医療に携わる先生方に伝えたかったのは、まさにそのことであったように思います。また、この分野は、まだまだ広く国民の方々に知っていただき、行政にも働きかけなければならない課題があること、そのために多方面からの協力が必要であることを考えさせられました。改めて、この学会に関わりご協力いただいた各業界の方々に感謝したいと思います。

さて、その学会も成功裏に終了し、ひと回り大きくなった私たちが次に向かっていく目標は何でしょうか。それを考えるにあたり、これまでなんとなく時間やルーチン業務に急かされ、追われていた生活から一歩前に踏み出し、視線はさらにもう一歩先を見据えて、セント・ルカで自分は何をしたいか、何が今足りないかを考えることではないでしょうか。周りに流されず幅広い視野で物事をとらえ、それらを自分たちなりに消化してさらなる研究の糧にしていきたいと思います。

一年を振り返って

受　付

越名　久美

この一年を振り返ってみると、やはり今年も毎日走り続けた激動な一年だったと思います。

2013年は何と言っても、８月に別府市で開催された第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が、当院にとっては一大プロジェクトでした。2012年10月から、各部署の担当者が集まり、ほぼ毎週のように受着会議が開かれました。学会直前に、スタッフに会場セクションの担当が任命され、毎日準備に追われました。当時は日頃の業務と、学会の準備の同時進行でスタッフ全員ヘトヘトに走り続けていたと思います。

私は、総合受付の責任者を任されました。総合案内・会計担当が13名。今回の学会参加費はすべて現金での取り扱い。絶対に間違えてはいけない、失敗は許されない…と、プレッシャーに押しつぶされそうでした。しかしその反面、この13名であれば絶対大丈夫という自信もありました。学会前夜から泊まり込み、学会当日。朝の受付はとても混雑しましたが、一人ひとりがそれぞれの担当を全うし、目標参加人数1,000名を超える、1,065名!! 大きなトラブルもなく、無事に終えることができました。

初めて全国規模の学会を主催するという大変貴重な経験をさせて頂き、ルカスタッフ一同、また更にパワーアップした気がします。

また６月には、JISARTシンポジウムにて「当院の新人教育」と題して発表させて頂きました。今回の発表では『新人教育』だけでなく、『生殖医療に携わる受付』とはこうあるべきだと、そして指導者である自分自身をもう一度見つめ直すことができました。

更にJISARTに関して言えば、JISART事務教育委員会。JISART施設の中から代表で６施設のトップが集まり、2013年は３回会議が開催されました。生殖補助医療の事務部門として私たちはどうあるべきか、生殖補助医療にふさわしい事務部門になるために、私たちはどうしたらよいのかを検討しています。毎回議論が活発でその度に刺激をもらっています。

当院受付は、2014年１月に新入職員が入社し、３月に入社７年目のベテランスタッフが結婚退職、４月からは新しい５人体制で動き出す事になりました。今、私達５人は目まぐるしい毎日を送っています。まずはこの１年、新しい５人がスムーズに日常業務が行える事。『目配り・気配り・心配り』を忘れず、患者さんの心に寄り添えるよう頑張っていき、スタッフ一人ひとりの個性を磨きあげ、今後も受付部門の指導者として邁進していきたいと思います。

一年を振り返って

受　付

足立　小百合

新病院に移転し、2014年７月で４年目を迎えることになりました。病院の回りには、新しい建物が建ち、道路や歩道もきれいに整備され、華やかな風景が広がるようになりました。

一年を振り返ると、2013年は慌しい一年でした。

2013年８月に開催された第31回日本受精着床学会総会・学術講演会を成功させるにあたり、2012年より準備をはじめ、開催１ヵ月前に細かい担当を決め、役割分担に沿っての作業を開始しました。通常業務と併用しての慣れない作業が多く大変でした。

学会が近づくにつれ、スタッフみんなの疲労と緊張が積み重なっている時、院長より「学会を楽しんでやろう」という言葉を頂き、みんなの緊張がほぐれた事を思い出します。楽しんで参加できたことにより学会を無事終えることができました。

総来場者数1,065名とたくさんの方々のご参加と、学会開催にご協力いただきました皆様に感謝致します。学会を終えるまでは、不安な事も多々ありましたが、改めて、スタッフの結束力の強さを感じることができました。この経験で得た事を、今後いろいろな面で発揮できるようにしていけたらと思います。

私自身も、早いもので入職し10年目を迎えることができました。毎日がとてもめまぐるしく感じた月日でした。初めて週１回の全体ミーティングに参加した時は、スタッフ全員で病院の品質向上と個々のスキルアップの為に、午後から４～５時間かけて活発に意見交換や話し合いを行っていることに圧倒されました。

特に、研究室の話には全くついていけなかった事を今でも鮮明に覚えており、「違う世界に来てしまった」と感じました。

それから、日々の業務の中での皆からの教え、毎週の全体ミーティングへの参加、日本生殖医療心理カウンセリング学会・日本受精着床学会・日本生殖医学会・JISARTでの学会参加と色々なことを経験させていただき、自身を成長させていただいたと感謝しています。

2014年３月、７年間在職した受付スタッフの結婚退職にあたり、１月より新人を迎え、４月より新しい体制で日々頑張っています。私自身も新人教育に力を入れ、自分自身のスキルアップへと繋がるように努力していきたいと思います。

まだまだ課題はありますが、これからも患者さんが安心して受診していただけるよう、受付スタッフ一丸となり、患者さん一人ひとりの気持ちに少しでも寄り添えるように心がけていきたいと思います。

一年を振り返って

情報処理室

工藤　由香

今年の桜は満開の時期に雨に降られ、山々に映える山桜の色を堪能する間もなく新緑の季節を迎えようとしています。2013年を振り返ってみようと思うのですが、もう随分古い事を思い返すような、そんな自分の気持ちに驚いてしまいます。

院長が３年以上をかけ入念に準備をした、第31回日本受精着床学会総会・学術講演会が成功裏に終了しました。ご参加いただいた先生方から、たくさんのお褒めのお言葉を頂戴しました。地方都市ならではの魅力を大いに感じていただけたのではないかと思います。そして、私を含め、運営に携わった全てのスタッフが、多くの満足感と、大きな達成感を、忘れ得ぬ記憶として刻んだのではないかと思っています。

思い返すと、前日からの準備を含め、この３日間は台風のように過ぎ去りました。いろんな風向きからの暴風も吹きましたが、無我夢中で走りすぎた後は、真っ青な空に大きな虹がかかった、えもいわれぬ幸福感の中に立っていたような気がします。

2013年は、Microsoft 社が WindowsXP のサポートを終了する最後の一年となりました。Windows７が2020年１月14日、Windows８の延長サポートも2023年１月10日に終了します。５年以上先の話ではありますが、一度端末を購入すれば、１年でも長く、使い慣れた機種を安定した状態で使いたいものです。

今当院は、徐々に端末の入れ替えを行っています。当院自慢の DB システム「SarahBase」、そして DB システムの基幹となる Oracle が、新 OS 上にて不具合なく動き、表示等変更することなく、最少のカスタマイズで動かせるように検証を行っています。

Windows７上では、スムーズな移行ができました。しかし、既に Windows８.１が登場し、机上を大きく占領していた PC に変わり、マウスもキーボードの設置も必要ない、安価なタブレットでも十分に通用する時代に入りました。

次の時代に向けて、当院では、各部署２～３名選出し、2013年より IT 委員会が活発に動いています。外来の忙しいスケジュールの中、IT 委員全員が集まり、各部署だけではなく、院全体を考えながら連携を考え、SarahBase の新ツール開発に向け話し合いを行っています。

看護部からは厨房との連携案や薬剤処方に関わるシステム、ラボからは、ペーパーレス化に向けての取り組みに対し検討を、受付からはタブレットを使用した患者自身の入力によるシステム構築の提案がなされています。

情報処理室の基本は「システム導入により業務負担を減らす」事にあります。入力が増えれば、当然業務負担は増えます。ですので、入力が増えても、そのデータを活用し、別のどこかの業務を減らす事を考えることが大事だと思います。

院全体にプラスになるような広い視野で次の2014年を迎えたいと思っています。

一年を振り返って

情報処理室

安部　里美

新緑の清々しい季節になりました。例年この時期は情報処理室にとって、年報作成のためのデータチェックや統計処理と１年で最も忙しい時期といえます。

開院以来、毎年同じ形式で作成してきた年報ですが、今年は院長の指示により、内容を見直すことになりました。どのような改訂を行うのか各部署から案を持ち寄り、その案を実行してみることになりました。マニュアルに沿って作業を進めていた例年とは違い、今年はデータの出し方やレイアウトなどを工夫しなければならないため、より責任を感じています。どのような年報になるのか、まだ完成は見えていませんが、より良い年報になるよう、しっかりと考えながら作業を進めたいと思います。

2013年に最も印象に残った事といえば、院長が大会長として別府市で開催した第31回日本受精着床学会総会・学術講演会です。学会の開催経験のない私たちがあのような大きな学会を無事に運営することができるのか、とても不安な気持ちで過ごしてきましたが、何度も話合いを重ねて入念に準備し、多くの方にご協力いただきながら、全スタッフがそれぞれ自分の仕事に責任を持って務めた結果、無事に成功を収めることができました。

私は初日には午前と午後で第４会場、第５会場の責任者、２日目はPC受付の責任者を務めさせていただきました。不安や緊張を感じながらも、インカムを使って他のスタッフと連絡を取ったり、他のスタッフがやり取りをしている様子を聞いていると、運営に携わっているという実感が増して、貴重な経験をさせていただいていることに誇らしさを感じたことを思い出します。

学会終了後に全スタッフで撮った集合写真は皆の笑顔が清々しく、また一つルカの団結力が深まった瞬間が収められている気がして気に入っています。本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

個人的には、2013年は入職して10年目の年となりました。医療のことなど何もわからないまま入職して、色々な経験をさせていただきながら、あっという間の月日だったと感じています。日々の業務をこなすことに追われてなかなか自分自身の成長に目を向けられていないので、苦手分野の克服など、もっと努力しなければと痛感しています。

ここ数年、ルカは新病院への移転や第31回日本受精着床学会総会・学術講演会の開催など、とても大きな目標に向かって進んで来ました。そのどちらも無事に終わった今、ほっとして立ち止まるのではなく、日々の業務を見直して、改善すべきところにきちんと目を向けられるよう、視野を広く持って業務に励みたいと思います。

一年を振り返って

厨　房

矢野　千恵美

高崎山も水玉模様に染まり、春本番です。

さて、2013年を振り返れば、やはり夏の真っ盛りに行われました「第31回日本受精着床学会総会・学術講演会」が何より先に思い出されます。

何年も前から院長を中心に、幹部スタッフの連日連夜のスタッフ会議。たくさんの苦労の結集が、この二日間の大成功へと花開いたのです。

厨房の私たちに何のお手伝いができるのか全く想像もつかず、真っ暗闇を手探り状態でした。しかし、幹部スタッフが係りを決め、スタッフの配置や業務内容を的確に準備をしてくれていたので、不安があった私たちも、自信を持って作業する事ができました。

ルカで勤務させてもらっていなければ、人生でこのような素晴らしい経験をする事なく、終わっていたでしょう。院長、事務長、ありがとうございます。

次に思い出されるのは、全国各地で猛威を振るったインフルエンザ、そしてノロウイルスです。ニュースや食中毒注意報を見て、恐怖を感じた事を思い出します。

厨房でも細心の注意を払いました。今後も患者さんや職員に安心して食事をしていただけるよう、より一層、衛生管理に気を配ってまいります。

話は変わりますが、患者さんからのアンケートの感想の中に「毎回とても楽しみで、本当においしかったです。元気回復の最大の源になりました！ これからもすばらしいお食事で、メンタルの弱った患者さんのサポーターよろしくお願いします。本当に心よりありがとうございました。」との記載がありました。

このようなメッセージを頂くと、私たち厨房もますます頑張ろうという励みになります。患者さんの不安を少しでも取り除いていけるよう、ルカの一員として、一人のサポーターとして、今後も心を込めて料理を提供していきます。

診療統計

開院から2013年までの成績

開院から2013年までの成績

(1992.6.3～2013.12.31)

当院の患者数

1)開院(1992.6.3)～本年(2013.12.31)までの外来患者数　**23,054人**

(内訳)　男性　8,307人(36.0%)　(平均年齢34.0才)

正常　4,337人(52.2%)

未検査・未診断　268人(3.2%)

異常　3,702人(44.6%)

女性　14,747人(64.0%)　(平均年齢31.7才)

・挙児希望の女性　11,401人(77.3%)　**(平均年齢31.7±4.6才)**

・妊娠件数　**6,989件**(平均年齢32.3±4.3才)

・妊娠に至らなかった女性　5,477人

2)妊娠率(患者あたり)　**52.0%** {(11,401−5,477)/11,401}

3)治療を途中で諦めた女性　5,174人(45.4%)

A)諦めざるをえなかった人(無精子症,早発閉経,高齢など)1,190人(10.4%)

B)いつの間にか諦めた人　3,984人(34.9%)

4)実妊娠率(Aを除く患者あたり)　**79.9%** {(11,401−5,477)/11,401−(5,174−1,190)}

5)実妊娠率(A,Bを除く患者あたり)　**95.1%** {(11,401−5,477)/(11,401−5,174)}

妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	**3,036例**	**(43.4%)**
IVF-ET(体外受精)	683例	(19.77%)
MF-ET(顕微授精)	951例	(13.61%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	1,359例	(19.44%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38例	(0.54%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5例	(0.07%)
ART(生殖補助医療)以外	**3,953例**	**(56.6%)**
IUI(選別精子子宮内注入法)	781例	(11.17%)
hMG+hCG,Gn-RHa	773例	(11.06%)
クロミフェン	459例	(6.57%)
ヒューナーテスト,タイミング指導	759例	(10.86%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	550例	(7.87%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	459例	(6.57%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	10例	(0.15%)
リンパ球免疫療法	15例	(0.21%)
その他	147例	(2.11%)
計	**6,989例**	**(100%)**

妊娠の転帰

他院へ紹介済	5,046例	(72.20%)
流産	1,630例	(23.32%)
異所性妊娠	189例	(2.70%)
胞状奇胎	14例	(0.20%)
中絶	1例	(0.02%)
不明	109例	(1.56%)
計	6,989例	(100%)

出産結果（他院へ紹介済の5,046例中、妊娠結果が判明している4,678例について）

1）妊娠結果

満期産	4,069例	(86.98%)
満期産＋死産*	4例	(0.09%)
満期産＋異所性妊娠*	1例	(0.02%)
満期産＋奇形中絶*	1例	(0.02%)
早産	448例	(9.58%)
早産＋死産*	9例	(0.19%)
過期産	18例	(0.38%)
死産	49例	(1.05%)
流産	58例	(1.24%)
流産＋死産*	1例	(0.02%)
奇形中絶	15例	(0.32%)
人工妊娠中絶	5例	(0.11%)
計	4,678例	(100%)

＊双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2）多胎妊娠について

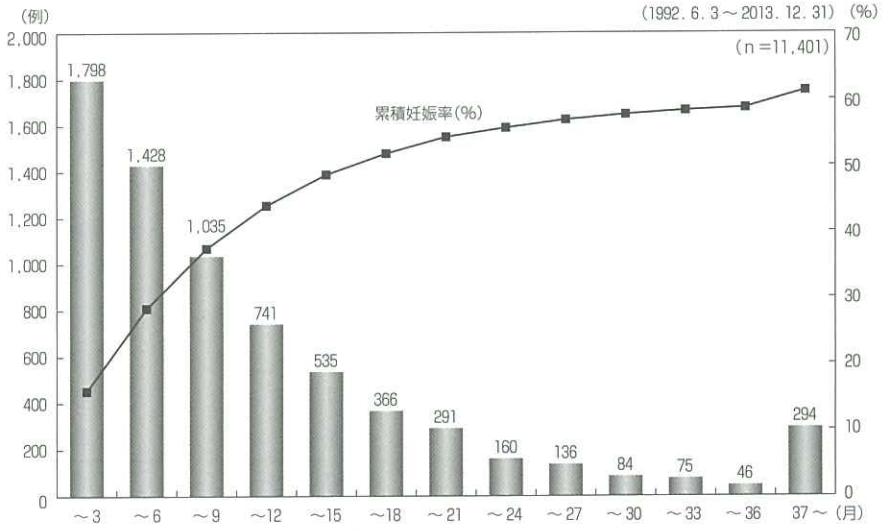
単胎	4,317例	(92.3%)	4,317児
双胎	345例	(7.4%)	690児
品胎	16例	(0.3%)	48児
計	4,678例	(100%)	5,055児

3）出生児の状態

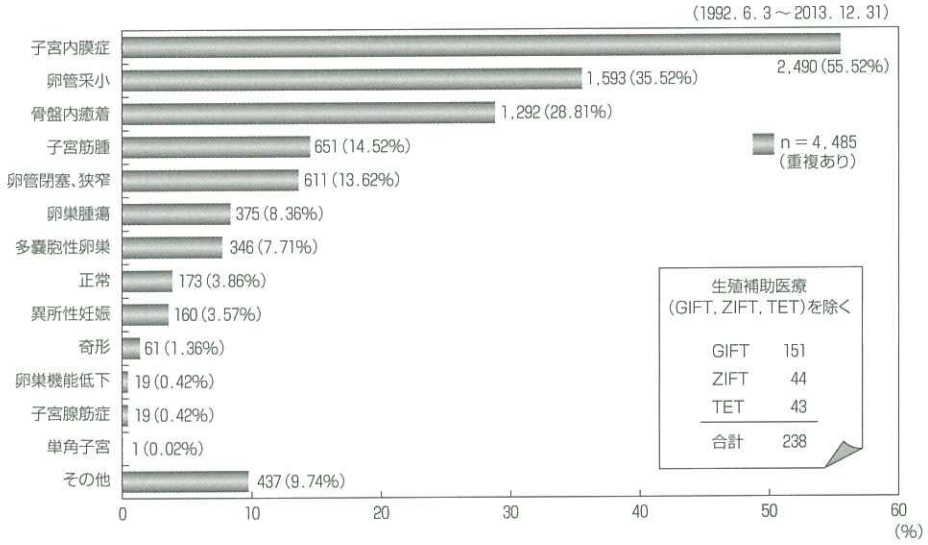
正常	3,947児	(78.1%)
低体重児	787児	(15.6%)
異常（死産等含む）	321児	(6.3%)
（うち奇形を含む主な異常）	(193児)	(3.8%)
計	5,055児	(100%)

（2013/12/31 セント・ルカ産婦人科）

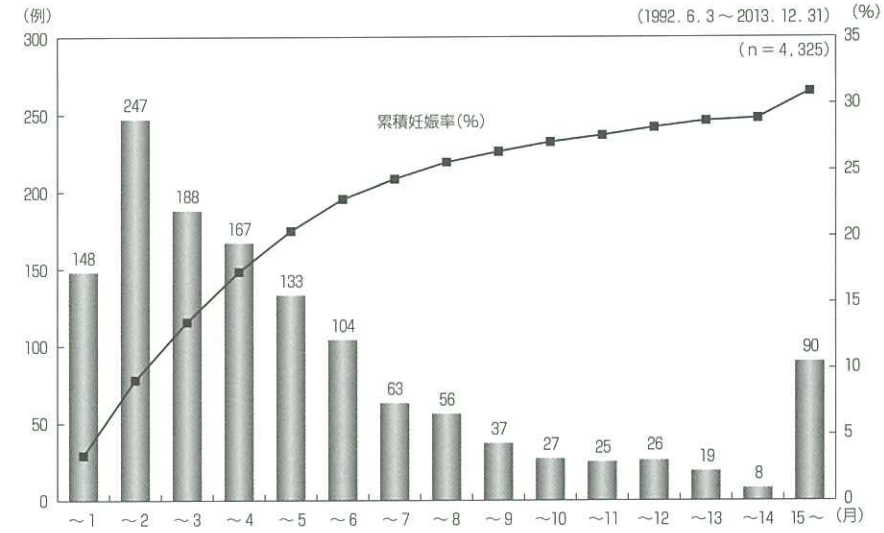
初診後妊娠までの期間



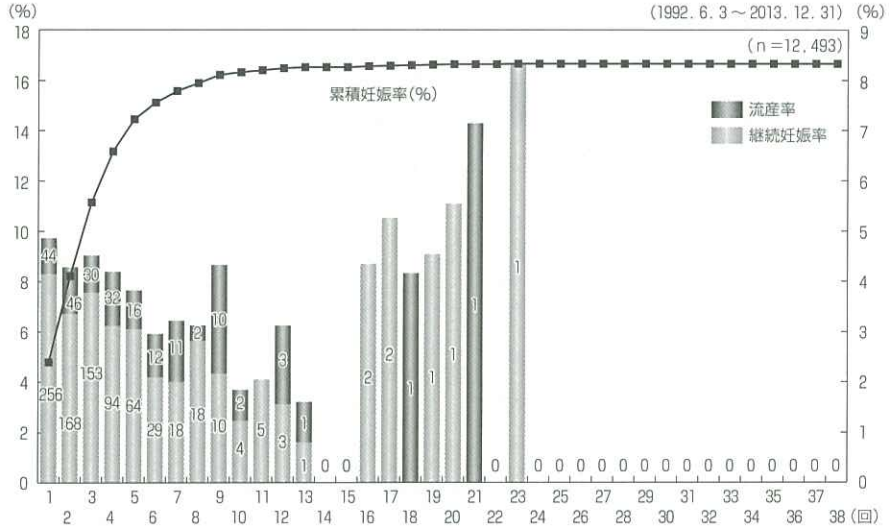
不妊症検査のための腹腔鏡検査での術後診断



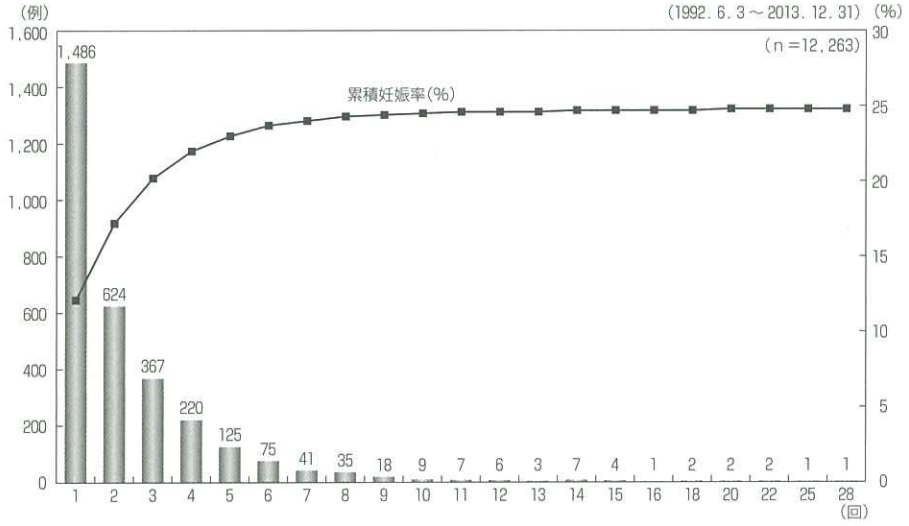
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



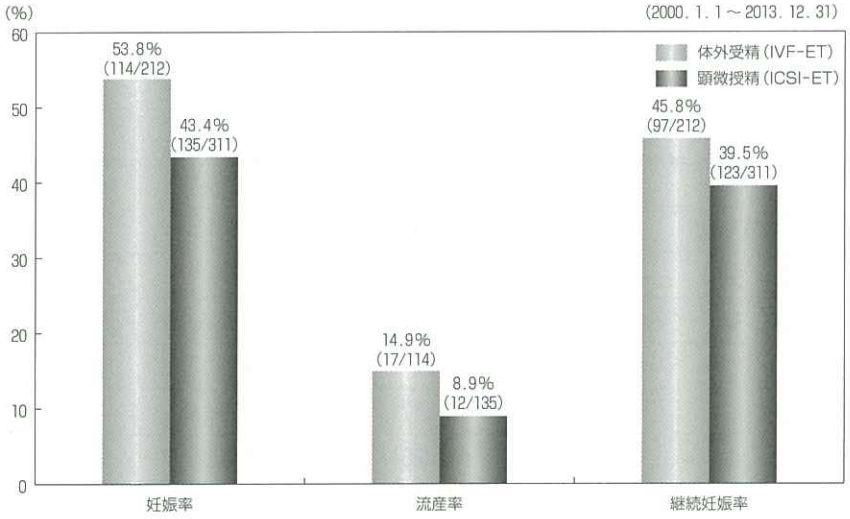
IUI（選別精子子宮内注入法）による回数別妊娠率



ART（生殖補助医療／体外受精・顕微授精・GIFT）による妊娠



35歳未満・体外受精１回目の妊娠率



妊 娠 数

(1992.6.3～2013.12.31)

	周　期	1992～2010	2011	2012	2013	合　計
体外受精胚移植 (IVF-ET)	採　卵	3,235	61	104	82	3,482
	移　植	2,391	23	42	31	2,487
	妊　娠	649 (27.1%)	7 (30.4%)	16 (38.1%)	9 (29.0%)	681 (27.4%)
顕微授精胚移植 (MF-ET)	採　卵	5,859	521	511	521	7,412
	移　植	4,047	252	230	215	4,744
	妊　娠	814 (20.1%)	49 (19.4%)	42 (18.3%)	41 (19.1%)	946 (19.9%)
凍結融解胚移植 (ICSI後凍結含む) (CRYO-ET)	凍結融解周期	3,558	474	524	561	5,117
	移　植	3,178	446	487	533	4,644
	妊　娠	791 (24.9%)	154 (34.5%)	167 (34.3%)	202 (37.9%)	1,314 (28.3%)
体外成熟培養後凍結融解胚移植 (IVM-CRYO-ET)	凍結融解周期	126	3	19	16	164
	移　植	103	1	17	14	135
	妊　娠	35 (34.0%)	0 (0.0%)	7 (41.2%)	2 (14.3%)	44 (32.6%)
配偶子卵管内移植 (GIFT)	採　卵	153	0	0	0	153
	移　植	151	0	0	0	151
	妊　娠	38 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	38 (25.2%)
接合子卵管内移植 (ZIFT)	採　卵	44	0	0	0	44
	移　植	44	0	0	0	44
	妊　娠	5 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (11.4%)
体外受精胚卵管内移植 (IVF-TET)	採　卵	22	0	0	0	22
	移　植	21	0	0	0	21
	妊　娠	2 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (9.5%)
顕微授精胚卵管内移植 (MF-TET)	採　卵	18	0	0	0	18
	移　植	18	0	0	0	18
	妊　娠	5 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (27.8%)
凍結融解胚卵管内移植 (CRYO-TET)	凍結融解周期	3	0	0	0	3
	移　植	3	0	0	0	3
	妊　娠	1 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
体外成熟培養体外受精胚移植 (IVM-IVF-ET)	採　卵	8	0	0	0	8
	移　植	0	0	0	0	0
	妊　娠	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
小　計	採　卵	9,339	582	615	603	11,139
	凍結融解周期	3,687	477	543	577	5,284
	移　植	9,956	722	776	793	12,247
	妊　娠	2,340 (23.5%)	210 (29.1%)	232 (29.9%)	254 (32.0%)	3,036 (24.8%)

ART*以外の妊娠数	3,433	171	188	161	3,953
妊娠総数	5,773	381	420	415	6,989

*生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

診療統計

2013年 一年間の成績

2013年 一年間の成績

外来患者数

(2013.1.1～2013.12.31)

	午前診療	河邉外来	夕方診療	合　計
1月	1,363	77	160	1,600
2月	1,520	100	227	1,847
3月	1,625	95	228	1,948
4月	1,572	106	214	1,892
5月	1,434	130	218	1,782
6月	1,516	119	225	1,860
7月	1,802	134	214	2,150
8月	1,627	101	160	1,888
9月	1,570	150	173	1,893
10月	1,661	121	166	1,948
11月	1,570	117	194	1,881
12月	1,284	126	189	1,599
合　計	18,544	1,376	2,368	22,288

初診患者数

(2013.1.1～2013.12.31)

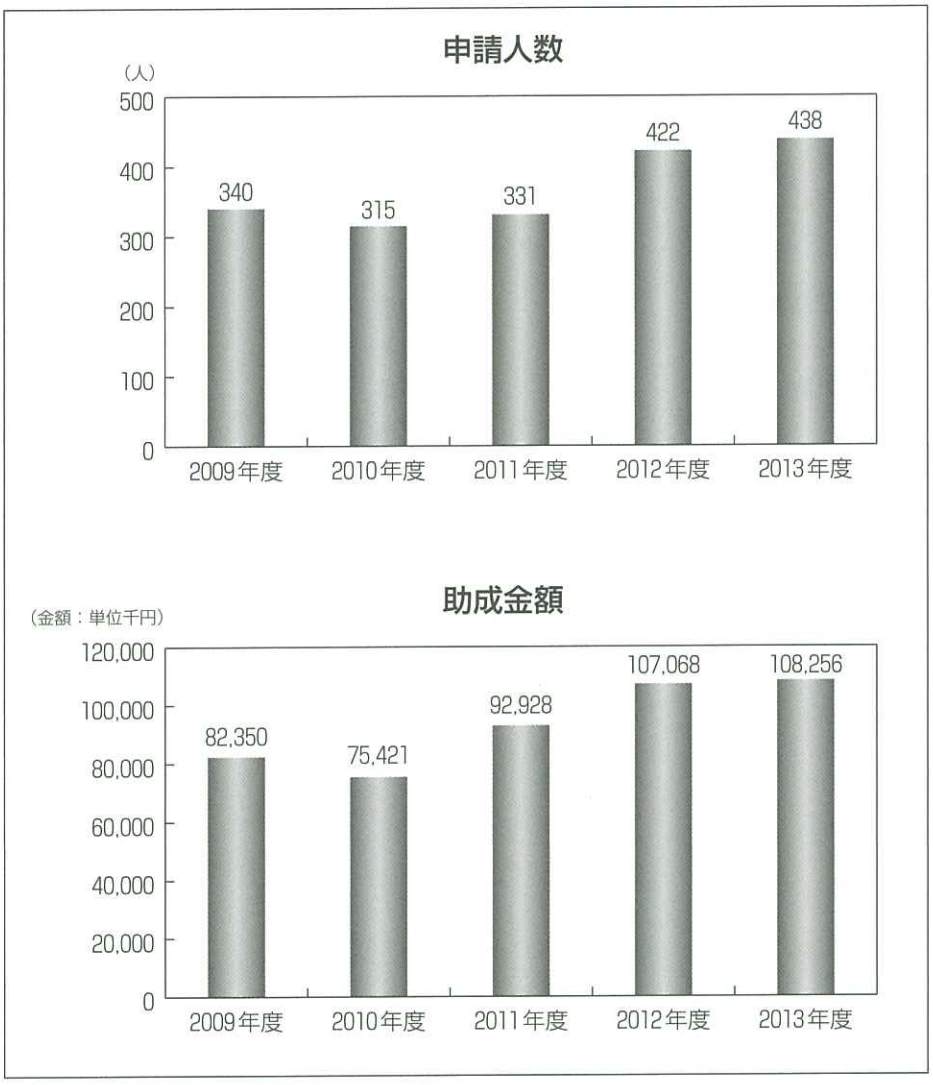
	午前診療	河邉外来	合　計
1月	31	14	45
2月	41	5	46
3月	43	2	45
4月	44	8	52
5月	44	5	49
6月	44	7	51
7月	45	6	51
8月	44	3	47
9月	40	6	46
10月	46	6	52
11月	42	10	52
12月	39	6	45
合　計	503	78	581

不妊治療費助成金申請内訳

2013年度

	人　数	申請回数	助成金額（円）
大　分　県	160	273	34,166,400
大　分　市	208	343	65,445,100
他　　県	4	7	975,000
県と市両方	54	64	6,938,200
大分市以外	8	8	332,200
市町村のみ	4	4	400,000
合　　計	438	699	108,256,900

過去５年分（2009年度～2013年度）のまとめ



過去5年間を振り返ってもわかるように、年々申請人数、助成金額が増えています。
また、2015年度より国の特定不妊治療費支援事業の制度変更により、助成開始年度や助成開始年齢によって、年度内の助成回数などが変更になる予定です。
より多くの方に早く制度をご理解いただき、利用していただきたいと思っております。

妊娠の内訳

期間（2013.1.1～2013.12.31）

妊娠に至った主たる有効治療

ART（生殖補助医療）全体	**254例**	**(61.2%)**
IVF-ET（体外受精）	9例	(2.2%)
MF-ET（顕微授精）	41例	(9.9%)
CRYO-ET（凍結胚移植）	204例	(49.1%)
ART（生殖補助医療）以外	**161例**	**(38.8%)**
IUI（選別精子子宮内注入法）	11例	(2.6%)
hMG+hCG，Gn-RHa	49例	(11.8%)
クロミフェン	7例	(1.7%)
ヒューナーテスト，タイミング指導	19例	(4.6%)
HSG（子宮卵管造影法）直後	39例	(9.4%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	26例	(6.3%)
腹腔鏡下子宮筋腫核出術	1例	(0.2%)
その他	9例	(2.2%)
計	**415例**	**(100%)**

妊娠の転帰

他院へ紹介済	253例	(61.0%)
流産	156例	(37.6%)
異所性妊娠	4例	(0.9%)
不明	2例	(0.5%)
計	415例	(100%)

※出産結果は全ての妊娠結果が判明している2012年の妊娠を対象とする

出産結果 （2012年に妊娠し他院へ紹介済の279例中、妊娠結果が判明している277例について）

期間（2012.1.1～2012.12.31）

1）妊娠結果

満期産	244例	(88.1%)
満期産＋奇形中絶*	1例	(0.4%)
早産	20例	(7.2%)
死産	2例	(0.7%)
流産	6例	(2.2%)
奇形中絶	4例	(1.4%)
計	277例	(100%)

＊双胎で2児の妊娠結果が異なる例

2）多胎妊娠について

単胎	267例	(96.4%)	267児
双胎	10例	(3.6%)	20児
計	277例	(100%)	287児

3）出生児の状態

正常	234児	(81.5%)
低体重児	29児	(10.1%)
異常（死産等含む）	24児	(8.4%)
（うち奇形を含む主な異常）	(14児)	(4.9%)
計	287児	(100%)

異常児の詳細 （2012年の妊娠で出生した287児のなかの14児について）

主な異常 14児	14児／287児（4.9%）		うちART*児：7児／137児（5.1%） ART以外児：7児／150児（4.6%）		
	ART	ART以外		ART	ART以外
21-Trisomy	1児	0児	水腎症	0児	1児
無頭蓋症	1児	0児	気胸	1児	0児
Arnold-Chiari 奇形	0児	1児	高ガラクトース血症	1児	0児
心室中隔欠損症	2児	0児	フェニルケトン尿症	0児	1児
心房中隔欠損症	0児	1児	奇形中絶	0児	2児
動脈管開存症	1児	1児			

＊生殖補助医療

手術・入院数

(2013.1.1～2013.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
手術数													
腹腔鏡手術	20	24	22	24	20	15	17	13	8	13	14	13	203
腹腔鏡下 子宮筋腫核出術	2	1	1	1	1	1	3	2	3	3	2	3	23
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
子宮内容除去術 (流産のため)	8	8	13	16	16	6	17	10	8	10	15	9	136
子宮筋腫核出術	1	3	3	2	2	3	5	3	3	1	1	3	30
卵巣腫瘍核出術	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	0	0	3	1	5	4	0	0	4	0	0	1	18
子宮内膜掻爬術	1	3	1	1	0	0	2	0	2	4	1	1	16
開腹手術 (子宮全摘出術)	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	0	4
その他	3	1	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1	9
合　　計	35	41	45	46	44	29	46	28	29	31	38	32	444
安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
切迫流産安静	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4
その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
合　　計	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	1	2	8
体外受精入院													
採　卵	39	60	48	46	47	55	67	51	50	63	47	35	608
胚移植	13	23	16	21	15	25	24	23	22	23	27	14	246
凍結胚移植	45	35	61	45	29	45	44	42	52	51	63	35	547
GIFT, ZIFT, TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合　　計	97	118	125	112	91	125	135	116	124	137	137	84	1,401
入院総計	132	161	171	158	136	155	181	144	153	168	176	118	1,853

ART（生殖補助医療）による妊娠

（2013.1.1 ～ 2013.12.31）

	採卵周期数	胚移植周期数（採卵あたり％）	妊娠周期数（移植あたり％）	流産周期数（妊娠あたり％）
IVF-ET	82	31 (37.8%)	9 (29.0%)	3 (33.3%)
MF-ET（男性因子以外も含む）	523	215 (41.1%)	41 (19.1%)	13 (31.7%)
(ICSI)	467	215 (46.0%)	41 (19.1%)	13 (31.7%)
CRYO-ET	577	547 (94.8%)	204 (37.3%)	100 (49.0%)
ART.total	1,182	793 (67.1%)	254 (32.0%)	116 (45.7%)

ART（生殖補助医療）による出産および出生児の状況

（2012.1.1 ～ 2012.12.31）

2012年に妊娠し、2013年12月31日までに妊娠結果が判明している135周期に限る				
妊娠結果	満期産		115周期 (85.19%)	
	満期産、中絶＊		1周期 (0.74%)	
	早産		14周期 (10.37%)	
	流産		4周期 (2.96%)	
	奇形中絶		1周期 (0.74%)	
多胎妊娠について	137児	単胎	133例 (98.5%)	133児
		双胎	2例 (1.5%)	4児
低体重児	10児 (7.3%)			
異常児	12児 (8.8%)	うち奇形を含む主な異常		7児 (5.1%)

＊双胎で2児の妊娠結果が異なる例

セント・ルカ産婦人科

一年のあゆみ

セント・ルカ産婦人科　1年のあゆみ　(2013.1.1～2013.12.31)

機器導入	4台		
学会発表	47題		
院　長	5		
医　局	3		
看護部	20		
研究室・培養室	19		
講演・講師	20題		
院　長	7		
医　局	1		
看護部	6		
研究室・培養室	5		
受　付	1		
学会講演会参加	32回		
研修会	16回		
論　文	3編		
著書（共著）	6編		
翻　訳	1編		
主催講演	4回		
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	4	総参加人数	290名
不妊カウンセラー活動	34回		
新患教室	8	総参加人数	540名
体外受精教室	11	総参加人数	675名
ガーネットサークル	3	総参加人数	13名
オリーブの会	8	総参加人数	47名
治療を終結した方を囲む会	1	総参加人数	10名

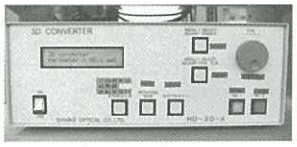
機器導入

〈看護部〉

2012.11　3D 内視鏡システム導入

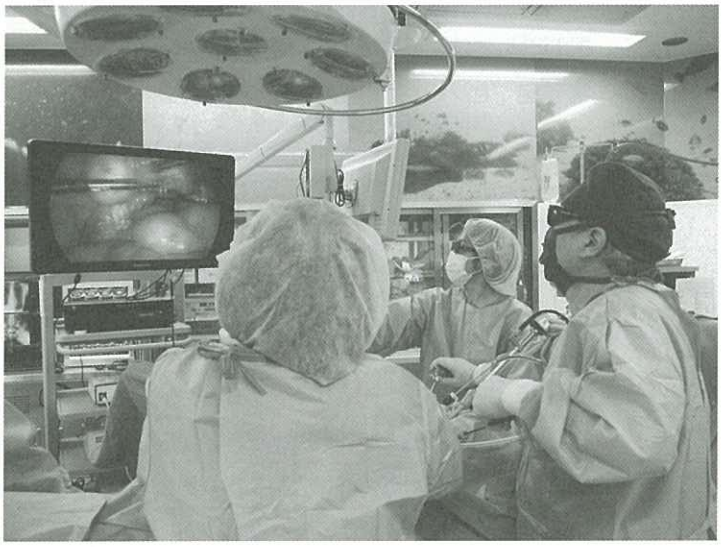
（3D 内視鏡テレスコープ・立体コンバーター・立体コントロールユニット：新興光器製作所、LCD モニター・偏光メガネ：Panasonic）

3D 内視鏡テレスコープ



立体コンバーター

立体コントロールユニット



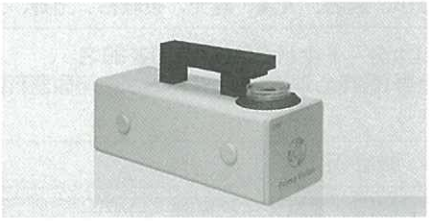
2D での手術ストレスが緩和され、手術の手技など格段に操作性が向上しています。

〈情報処理室〉

2013. 2　Server 入れ替え（System x3200 M2：IBM）〈OS：Microsoft Windows Server 2008 R2〉

〈培養室〉

2013. 4　タイムラプス撮影装置導入（Primo vision：Vitrolife）



Primo vision

2013.11　レーザーシステム導入（Saturn 5 Active：RI）

2013.12　精子運動解析システム導入（SMAS：DITECT）

行事一覧

2013

1．7	新年会（セント・ルカ多目的ホール）
1．7	新職員　後藤厚子（研究室・培養室）
1．8	第166回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
1.12	第69回　新患教室　参加者73名　参加〈越名、後藤香、坂本、手島、足立直、篠田〉
1.13	第188回 体外受精教室　参加者64名　参加〈足立小、佐藤、北田、岡田、赤嶺、篠田〉
1.15	第17回　セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員：上野徳美先生（大分大学医学部医学科社会心理学 教授）、緒方俊一先生（おがた泌尿器科医院 院長）、近藤邦子先生（別府平和園 保育士）、指山実千代（セント・ルカ産婦人科 看護部顧問）、野村陽一先生（日本福音ルーテル大分教会 牧師）（五十音順）
1.16	日本放送協会（NHK）大分放送局記者 取材の為ご来院
1.18	第34回　日本エンドメトリオーシス学会（栃木）　参加〈手島、越光、院長〉 発表：「子宮腺筋症核出術を行った患者の検討」（院長）
1.18	第22回　大分婦人科悪性腫瘍研究会（大分）　参加〈河邉〉
1.19	第 9 回　第8期オリーブの会　参加者6名
1.21	第 6 回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
1.25	第213回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分）　参加〈河邉、院長〉
1.26	JISART 研究倫理申請ヒアリング（大阪）　参加〈院長〉
1.28	第 7 回　受着会議　参加〈山路、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、後藤裕、上野、河邉、院長〉
1.31	第 4 回　JISART フォローアップ部会予後調査部門会（東京）　参加〈上野〉
1.31	第 6 回　JISART フォローアップ部会（東京）　参加〈上野〉
2．1	第 8 回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
2．1	第 7 回　大分女性医学フォーラム（大分）　参加〈河邉、院長〉
2．2	第16回　胎児遺伝子診断研究会（東京）　参加〈城戸、大津、院長〉 発表：「不妊症患者の出生前診断についての意識調査」（院長）
2．2	第 5 回　JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー実務研修（大阪）　参加〈上野〉 講師：「JISART フォローアップ部会について」（上野桂子） 「被提供者の子どもへの告知についてのカウンセリング演習」（上野桂子）
2．3	第 4 回　JISART フォローアップ部会相談部門会（大阪）　参加〈上野〉
2．5	第 9 回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、大津、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
2．9	第52回　『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座（大分・トキハ会館）　参加者80名 講師〈越名（受付）、後藤裕（看護師長）、上野（臨床心理士）、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生〉 参加〈工藤、城戸、坂本、足立直、斉高〉
2.10	第 2 回　JISART 児の長期予後調査検討会（東京）　参加〈足立小〉
2.12	第167回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
2.15	第10回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
2.18	IVF 詠田クリニック院内研修（福岡） 講演：「生殖医療われわれの取り組み」（院長）
2.23	第189回 体外受精教室　参加者52名　参加〈足立小、小池、松土、二宮、関〉
2.23	第10回　第 8 期オリーブの会　参加者4名
2.23	日本放送協会（NHK）大分放送局より、オリーブの会取材の為ご来院
2.25	第11回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、関、篠田、後藤裕、河邉、院長〉

2.26	新 Server 入れ替え
2.28	JOY の会（大分）　参加〈河邉〉
3．1	新職員　河野愛、戸髙里美（看護部）
3．2	日本生殖医療心理カウンセリング学会 生殖心理カウンセラー・生殖医療相談士継続研修（宮城） 参加〈篠田、上野〉
3．2	日本生殖医療心理カウンセリング学会役員会（宮城）　参加〈上野、院長〉
3．3	第10回　日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会（宮城）　参加〈松元、篠田、上野、院長〉 教育セミナーシリーズ「生殖心理カウンセリングの現状と将来」座長：院長 講演：パネルディスカッション 「チーム医療の役割「絆」－生命の原点をみつめなおす－心理士の立場から」（上野桂子） 発表：「妊娠に至らず「治療終結した元患者を囲む会」を開催して」（松元恵利子） 「治療体験者を招いての患者会（オープングループ）の取り組みと課題」（篠田多加子）
3．4	第110回 大分県周産期研究会（大分）　参加〈山路、平松、大城、青木、足立小、小池、佐藤、城戸、後藤香、指山、萬、坂本、手島、岡田、亀井、松元、二宮、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕、上野、院長〉 発表：「当院における多胎妊娠予防に対する取り組み」（城戸京子） 「治療体験者を招いての患者会（オープングループ）の取り組みと課題」（篠田多加子）
3．8	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』夏号（Vol.18）取材
3．9	日本生殖再生医学会役員会（東京）　参加〈院長〉
3.10	日本生殖再生医学会 第 8 回学術集会（東京）　参加〈小池、佐藤、院長〉 発表：「抗がん剤（シクロフォスファミド）投与によるマウス受精および胚発育能に及ぼす影響」（小池恵） 「ART 後の流産の絨毛染色体検査結果が正常核型の絨毛と対応精子のメチル化解析」（佐藤晶子）
3.12	第168回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.12	大分産婦人科 update（大分）　参加〈河邉、院長〉
3.16	第52回　ガーネットサークル　OG1 名、参加者4名
3.16	第42回　JISART 理事会（東京）　参加〈院長〉
3.20	第70回　新患教室　参加者85名　参加〈油野、越名、佐藤、坂本、斉高、足立直、越光〉
3.22	日本受精着床学会平成24年度第3回常務理事会（東京）　参加〈院長〉
3.27	日本放送協会（NHK）大分放送局より取材の為ご来院
3.27	大分放送（OBS）より取材の為ご来院
3.28	大分放送（OBS）OBS イブニングニュース「不妊治療助成金制度について」放送
3.28	ジェナさんと JISART フォローアップ委員会との交流会（大阪）　参加〈上野〉
3.30	第190回 体外受精教室　参加者60名　参加〈足立小、熊迫、河野、戸髙、岡田、松土、関〉
3.30	第11回　第 8 期オリーブの会　参加者5名
3.30	日本放送協会（NHK）大分放送局より、オリーブの会取材の為ご来院
4．1	新職員　下川侑樹乃（研究室・培養室）、稗田真由美（心理専門相談室）
4．1	日本生殖医療心理カウンセリング学会認定 生殖医療相談士取得〈看護部：手島しおり〉
4．5	日本放送協会（NHK）大分放送局より取材の為ご来院
4．9	第169回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
4．9	第18回　セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員：上野徳美先生（大分大学医学部医学科社会心理学 教授）、緒方俊一先生（おがた泌尿器科医院院長）、近藤邦子先生（別府平和園 保育士）、指山実千代（セント・ルカ産婦人科 看護部顧問）、野村陽一先生（日本福音ルーテル大分教会 牧師）（五十音順）
4.10	第12回　受着会議　参加〈山路、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、上野、院長〉

4.10	タイムラプスシステム導入
4.13	第71回　新患教室　参加者67名　参加〈越名、下川、後藤香、戸髙、坂本、足立直、斉高、篠田、稗田〉
4.13	セント・ルカ産婦人科＆メディテック・ルカ合同お花見（大分・七瀬川）
4.16	第13回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、後藤裕、上野、河邉、院長〉
4.18	第11回　日本臨床医学リスクマネジメント学会（東京）　参加〈城戸、手島、院長〉 発表：「生殖補助医療における多胎妊娠予防に対する取り組み」（城戸京子） 「不妊治療施設におけるインシデントレポート ～発生状況と対策についての分析～」（手島しおり）
4.19	第37回　大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会（大分） 参加〈山路、平松、工藤、大城、青木、西郡、足立小、越名、下川、佐藤、長木、大津、戸髙、坂本、北田、岡田、亀井、松元、斉高、赤嶺、関、越光、後藤裕、稗田、上野、河邉、院長〉 「生殖医療と家族のかたち」（埼玉医科大学 産婦人科 教授 石原理先生）
4.20	第 9 回　九州産婦人科内視鏡手術研究会（福岡）　参加〈岡田、越光、河邉、院長〉 発表：「当院の子宮鏡手術症例の検討」（院長）
4.21	第70回　九州・沖縄生殖医学会（福岡）　参加〈小池、熊迫、手島、岡田、越光、後藤裕、河邉、上野、院長〉 「ART 成績」座長：院長 発表：「抗がん剤（シクロフォスファミド;CPA）投与によるマウス卵巣機能への影響」（小池恵） 「内分泌と精液検査パラメーターからみた造精機能と生活習慣との関連について」（熊迫陽子） 「不妊治療施設におけるインシデントレポート～発生状況と対策についての分析～」（手島しおり） 「妊娠・出産に対する意識調査－高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に－」（岡田清美） 「不妊症患者の非配偶者間生殖補助医療に対する意識調査」（越光直子） 「ヒヤリ・ハット報告～連携ミス事例を振り返って～」（後藤裕子） 「子宮内膜症性卵巣嚢胞エタノール固定後の卵巣予備能の変化」（河邉史子）
4.21	九州・沖縄生殖医学会評議員会（福岡）　参加〈院長〉
4.21	日本卵子学会 生殖補助医療管理胚培養士更新審査（東京）〈大津〉
4.26	第14回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
4.27	第191回 体外受精教室　参加者65名　参加〈足立小、下川、佐藤、戸髙、岡田、松土、関、稗田〉
4.27	第12回　第8期オリーブの会　参加者8名
4.27	日本放送協会（NHK）大分放送局より、オリーブの会取材の為ご来院
4.27	第15回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
4.30	第16回　受着会議　参加〈山路、平松、足立小、越名、熊迫、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
5. 2	日本放送協会（NHK）しんけんワイド大分「出生前診断についてどう向き合うか」放送
5. 7	第170回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5. 7	第17回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
5. 8	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』秋号（Vol.19）取材
5. 8	第18回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
5.10	第65回　日本産科婦人科学会学術講演会（北海道）　参加〈院長〉
5.10	IFFS International Meeting 2015「第 2 回組織委員会」（北海道）　参加〈院長〉
5.11	日本受精着床学会倫理委員会（北海道）　参加〈院長〉
5.11	第 6 回　JISART 非配偶者間生殖医療に関わるカウンセラー実務研修（大阪）　講師〈上野〉
5.18	第53回　『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座（大分・トキハ会館）　参加者61名 講師〈越名（受付）、後藤裕（看護師長）、上野（臨床心理士）、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生〉 参加〈平松、下川、城戸、戸髙、坂本、足立直、斉高、稗田〉
5.21	第19回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
5.25	第13回　第 8 期オリーブの会　参加者5名

5.25	日本放送協会（NHK）大分放送局より、オリーブの会取材の為ご来院
5.25	第54回　日本卵子学会（東京）　参加〈小池、熊迫、院長〉 発表：「抗がん剤（シクロフォスファミド;CPA）投与によるマウス卵巣機能への影響」（小池恵） 「内分泌と精液検査パラメーターからみた造精機能と生活習慣との関連について」（熊迫陽子）
5.25	日本卵子学会 第12回培地開発委員会（東京）　参加〈院長〉
5.25	日本卵子学会理事会（東京）　参加〈院長〉
5.26	第２回　JISART 事務教育委員会（東京）　参加〈越名〉
6．1	第192回 体外受精教室　参加者74名　参加〈足立小、下川、小池、岡田、松土、二宮、関〉
6．8	第５回　JISART 心理教育セミナー（宮城）　参加〈上野〉
6．8	第６回　JISART 受付教育セミナー（宮城）　参加〈青木、越名〉
6．8	第６回　JISART ラボ教育セミナー（宮城）　参加〈熊迫、大津〉
6．8	第10回　JISART 看護教育セミナー（宮城）　参加〈篠田、後藤裕〉
6．8	第43回　JISART 理事会（宮城）　参加〈院長〉
6．9	第11回　JISART シンポジウム（宮城）　参加〈青木、越名、熊迫、大津、篠田、後藤裕、上野、院長〉 「JISART 児の長期予後調査のお話」座長：院長 講演：「ようこそ大分へ（第31回日本受精着床学会の見所）」（院長） 部門間ディスカッション「当院の新人教育」（越名久美）
6.11	第171回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
6.15	第72回　新患教室　参加者69名 参加〈越名、下川、後藤厚、佐藤、戸高、坂本、足立直、斉高、後藤裕〉
6.15	THE VITROLIFE ALL JAPAN TOUR（福岡）　参加〈小池、後藤香〉 講演：「当院における Primo Vision 導入報告」（小池恵）
6.16	JISART 施設認定審査　審査員〈上野〉
6.19	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ【For MEN】』取材
6.21	日本受精着床学会 平成25年度 第１回常務理事会（東京）　参加〈院長〉
6.22	第193回 体外受精教室　参加者54名　参加〈足立小、下川、大津、戸高、松土、岡田、二宮、篠田〉
6.22	第53回　ガーネットサークル　OG１名、参加者４名
6.24	第111回 大分県周産期研究会（大分） 参加〈山路、平松、工藤、西郡、越名、下川、城戸、後藤香、熊迫、長木、大津、戸高、坂本、北田、岡田、亀井、足立直、松元、斉高、赤嶺、関、越光、後藤裕、稗田、上野、院長〉 発表：「ヒト胚の動的解析による今後の展望」（後藤香里） 「妊娠・出産に対する意識調査－高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に－」（岡田清美）
6.25	ISO9001マネジメントレビュー
6.25	第20回　受着会議　参加〈山路、平松、工藤、足立小、越名、熊迫、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邉、院長〉
6.29	第14回　第8期オリーブの会　参加者４名
6.29	第25回　大分内視鏡外科研究会（大分）　参加〈亀井、越光、後藤裕、河邉〉 発表：「挙児希望患者のある子宮内膜症性卵巣嚢胞症例の取り扱いについて」（院長）
6.30	平成25年度大分産科婦人科学会・大分県産婦人科医会総会（大分）　参加〈河邉、院長〉 発表：「当院における挙児希望患者の風疹抗体保有率の検討」（河邉史子）
7．2	第31回　日本受精着床学会総会・学術講演会に向けての打合せ　株式会社コンベックス（東京）より３名ご来院
7．2	大分県助産師会 平成25年度不妊予防啓発事業出前講座合同勉強会（当院 多目的ホールにて） 講義：「不妊症とは？」（院長）
7．3	吉村やすのり出版祝賀会（東京）　参加〈院長〉

7．5	読売新聞記者 取材の為ご来院
7．6	第73回　新患教室　参加者39名　参加〈越名、下川、長木、戸髙、坂本、足立直、斉高、後藤裕、稗田〉
7．9	院内全体研修：避難訓練（担当：研究室・培養室）
7.10	大分県立看護科学大学（大分）講義　参加〈平松、下川、戸髙、岡田、二宮、篠田、稗田〉 講義：「不妊症講座」（院長）
7.11	大分県立看護科学大学（大分）講義　参加〈稗田〉 講義：「不妊症患者の心理的支援－加齢患者と治療終結を中心に－」（上野桂子）
7.13	第４回　遺伝カウンセリング研修会（京都）　参加〈院長〉
7.16	第172回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
7.17	厚生労働科学研究班 第１回研究班会議（東京）　参加〈工藤、院長〉
7.17	厚生労働省科学研究費児の調査実務担当者会議（東京）　参加〈工藤〉
7.18	MediPlaza（東京）にて医療 ICT 実践講座　参加〈工藤〉
7.19	共同通信社編集局社会部記者 取材の為ご来院
7.20	第194回 体外受精教室　参加者58名　参加〈足立小、下川、熊迫、松土、岡田、二宮、関、稗田〉
7.24	第31回　日本受精着床学会総会・学術講演会に向けての打合せ　株式会社コンベックス（東京）より3名ご来院
7.25	第21回　受着会議　参加〈山路、安部、工藤、足立小、越名、城戸、後藤香、熊迫、長木、大津、篠田、越光、後藤裕、上野、河邊、院長〉
7.27	第９回　ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会　参加者10名
7.27	日本放送協会（NHK）大分放送局記者 取材の為ご来院
8．3	第74回　新患教室　参加者55名　参加〈越名、下川、後藤香、坂本、川村、斉高、後藤裕、稗田〉
8．7	日本受精着床学会常務理事会（別府）　参加〈院長〉
8．8	第31回　日本受精着床学会総会・学術講演会（別府）会長：院長　参加〈全職員〉 会長講演：「これからの生殖医療－生まれてくるこどものために－」（院長） 市民公開講座：「抗がん剤（シクロフォスファミド；CPA）投与によるマウス卵巣機能への影響」（小池恵） シンポジウム：「新たな閉鎖系 vitrification 法を用いた胚盤胞の凍結融解胚移植における臨床成績の比較」（城戸京子） 「電気化学計測技術を応用したヒト胚品質評価法の開発と不妊治療における臨床的有用性に関する研究」（熊迫陽子） 「治療終結における支援－心理士の立場から－」（上野桂子） 「子宮内膜症性卵巣嚢胞エタノール固定術と再発、悪性化の検討」（河邊史子） ワークショップ：「当院における医療安全対策と今後の課題」（後藤裕子） ランチョンセミナー：「配偶者（夫または妻）に染色体異常を有する症例へのアプローチ」（大津英子） 発表：「ART後の流産における絨毛染色体検査結果が正常の絨毛と対応精子のメチル化解析」（佐藤晶子） 「HRT 周期における DAY5凍結胚盤胞の至適融解移植日の検討」（後藤香里） 「不妊治療施設におけるインシデントレポート ～発生状況と対策についての分析～」（手島しおり） 「妊娠・出産に対する意識調査－高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に－」（岡田清美） 「不妊症患者の非配偶者間生殖補助医療に対する意識調査」（越光直子）
8．8	日本受精着床学会理事会（別府）　参加〈院長〉
8.10	第195回 体外受精教室　参加者46名　参加〈油野、足立小、下川、佐藤、岡田、関、稗田〉
8.13	第173回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
8.14	徳島大学ぎねこ連にて阿波踊り（徳島）　参加〈工藤、越名、手島、後藤裕、事務長、院長〉
8.17	JISART 生殖医療サマーフォーラム（東京）　参加〈院長〉 講演：「JISART の活動・実績～国際学会での発表から公的研究について～」（院長）
8.24	第20回　臨床細胞遺伝学セミナー（東京）　参加〈城戸、大津、院長〉
8.28	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』冬号（Vol.20）取材

8.29	弘前女性クリニック（青森）院長 蓮尾豊先生による別府平和園児童への性教育講座（別府） 参加者105名　参加〈工藤、青木、小池、熊迫、亀井、関、篠田、稗田、院長〉
8.30	弘前女性クリニック（青森）院長 蓮尾豊先生によるお母さんのための性教育講座（大分） 参加者26名　参加〈山路、安部、工藤、越名、事務長〉
8.30	第31回　日本受精着床学会総会・学術講演会慰労会
8.31	第54回　『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座（大分・トキハ会館）　参加者74名 講師〈越名（受付）、後藤裕（看護師長）、稗田・上野（臨床心理士）、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生〉 参加〈山路、下川、城戸、坂本、足立直、斉高〉
9. 5	第53回　日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会（愛知）　参加〈院長〉
9. 6	第23回　遺伝医学セミナー（千葉）　参加〈院長〉
9.10	第174回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
9.10	第19回　セント・ルカ産婦人科倫理委員会 倫理委員：上野徳美先生（大分大学医学部医学科社会心理学 教授）、緒方俊一先生（おがた泌尿器科医院院長）、後藤裕子（セント・ルカ産婦人科 看護師長）、近藤邦子先生（別府平和園 保育士）、野村陽一先生（日本福音ルーテル大分教会 牧師）（五十音順） オブザーバー：河邉史子（セント・ルカ産婦人科 医師）
9.13	第44回　日本看護学会看護総合学術集会（別府）　参加〈手島、後藤裕〉
9.13	第216回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分）　参加〈河邉〉
9.15	JISART ラボ主任クラスによる地区別施設交流会（福岡）　参加〈後藤香〉
9.19	IVF 大阪クリニック（大阪）卵管鏡手術見学　参加〈関、越光、院長〉
9.21	第196回 体外受精教室　参加者69名　参加〈足立小、小池、岡田、松土、二宮、篠田〉
9.22	平成25年度 日本卵子学会 第1回理事会（東京）　参加〈院長〉
9.24	院内全体研修：食中毒について（担当：厨房）
9.27	第217回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分）　参加〈河邉〉
9.28	第20回　出生前診断研究会幹事会（鹿児島）　参加〈院長〉
9.28	第20回　遺伝性疾患に関する出生前診断研究会（鹿児島）　参加〈佐藤、篠田、院長〉
9.29	第10回　日本生殖看護学会九州地区勉強会（福岡）　参加〈手島、後藤裕〉
9.29	九州思春期研究会10周年記念研究大会（福岡）　参加〈越名、岡田、関〉
10. 4	第38回　大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会（大分）　参加〈山路、安部、工藤、大城、青木、西郡、足立小、越名、下川、佐藤、城戸、大津、戸髙、坂本、岡田、亀井、足立直、松元、二宮、斉高、赤嶺、関、越光、後藤裕、稗田、河邉、院長〉 「女性のうつ病－不妊とうつも含めて－」（島根大学 産科婦人科 教授 宮崎康二先生）
10. 5	第75回　新患教室　参加者71名　参加〈越名、下川、大津、戸髙、坂本、足立直、斉高、後藤裕〉
10. 5	第54回　ガーネットサークル　OG1名、参加者5名
10. 6	JISART 施設認定審査　審査員〈院長〉
10. 8	第175回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
10.11	第 4 回　大分産科婦人科内視鏡研究会（大分）　参加〈坂本、北田、二宮、篠田、河邉〉
10.13	A Conjoint Meeting of the IFFS and ASRM（Boston）　参加〈長木、手島、事務長、院長〉 発表：「Methylation errors at imprinted loci after assisted conception originate in the parental sperm」（院長） 「Impact of pre and post laparoscopic ovarian treatment on ovarian reserve in infertile women」（長木美幸） 「Fertility Clinic Incident Report － Occurrence of Incidents and Measures taken －」（手島しおり）
10.13	JISART 施設認定審査　審査員〈後藤裕〉

10.22	院内全体研修：胚の発育に関して（担当：研究室・培養室）
10.26	第１回　第９期オリーブの会　参加者８名
10.27	平成25年度 日本卵子学会 第２回理事会（東京）　参加〈院長〉
10.29	第112回 大分県周産期研究会（大分）　参加〈山路、安部、工藤、大城、足立小、下川、小池、佐藤、熊迫、長木、大津、戸髙、坂本、北田、亀井、足立直、二宮、斉高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕、稗田、河邉、院長〉
10.30	東北新社 映像制作事業部より、「非配偶者間提供医療について」の電話取材
11. 1	新職員　伊藤京美（看護部）
11. 2	第197回 体外受精教室　参加者77名　参加〈油野、足立小、下川、佐藤、伊藤、戸髙、松土、二宮、関〉
11. 8	クリニック（大阪）より６名ご来院
11. 9	第55回　『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座（大分・トキハ会館）　参加者75名 講師〈越名（受付）、後藤裕（看護師長）、稗田（臨床心理士）、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生〉 参加〈工藤、油野、下川、長木、伊藤、戸髙、坂本、足立直〉
11.10	第10回　大分県母性衛生学会役員会（大分）　参加〈後藤裕〉
11.10	第10回　大分県母性衛生学会（大分）　参加〈戸髙、坂本、川村、岡田、亀井、足立直、松元、二宮、斉高、赤嶺、関、篠田、越光、後藤裕、河邉、院長〉 発表：「妊娠・出産に対する意識調査－高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に－」（岡田清美）
11.10	第31回　おぎゃあ献金推進月間記念講演会（大分）　参加〈後藤裕、河邉、院長〉
11.11	大分朝日放送（OAB）より、「国が不妊治療助成金の給付対象を43歳までとする動きについて」のインタビュー取材
11.12	第176回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
11.13	The 9th of the Pacific Rim Society for Fertility and Sterility（神戸）　参加〈佐藤、長木、手島、院長〉 発表：「Fertility clinic incident report － occurrence of incidents and measures taken －」（手島しおり） 「Methylation Errors at imprinted loci after Assisted Reproductive Technologies（ART）Conception Originate in the Parental Sperm」（佐藤晶子）**（Poster Award 受賞）** 「Impact of pre and post laparoscopic ovarian treatment on ovarian reserve in infertile women」（長木美幸）
11.14	IFFS International Meeting 2015「第3回組織委員会」（神戸）　参加〈院長〉
11.14	大分朝日放送（OAB）より、「国が不妊治療助成金の給付対象を43歳までとする動きについて」の患者さんへのインタビュー取材
11.15	第58回　日本生殖医学会学術講演会・総会（神戸） 参加〈小池、後藤香、熊迫、長木、手島、岡田、越光、後藤裕、河邉、院長〉 一般演題「受精・胚・着床4」座長：院長 発表：「抗がん剤（シクロフォスファミド;CPA）投与によるマウス卵巣機能への影響」（小池恵） 「観察による胚へのストレスを考慮した Primo Vision（Time-Lapse embryo monitoring system）を用いた胚発生について」（後藤香里） 「内分泌と精液検査パラメーターからみた造精機能と生活習慣との関連について」（熊迫陽子） 「腹腔鏡下手術が卵巣予備能に与える影響」（長木美幸） 「不妊治療におけるインシデントレポート～発生状況と対策についての分析～」（手島しおり） 「妊娠・出産に対する意識調査－高校生・20代未婚女性・不妊症患者を対象に－」（岡田清美） 「不妊症患者の非配偶者間生殖補助医療に対する意識調査」（越光直子） 「ヒヤリ・ハット報告～連携ミス事例を振り返って～」（後藤裕子） 「子宮内膜症性卵巣嚢胞エタノール固定術と再発、悪性化の検討」（河邉史子）
11.17	第３回　JISART 事務教育委員会（東京）　参加〈越名〉
11.19	大分朝日放送（OAB）スーパーＪチャンネルおおいた 「国が不妊治療助成金の給付対象を43歳までとする動きについて」放送
11.20	日本人類遺伝学会第58回大会（宮城）　参加〈下川、城戸、大津、院長〉
11.20	第218回 大分市医師会産婦人科臨床検討会（大分）　参加〈河邉〉

11.21	第44回　大分市医師会医学会（大分）　参加〈山路、安部、青木、西郡、越名、小池、佐藤、熊迫、戸高、坂本、手島、北田、岡田、亀井、足立直、二宮、赤嶺、関、篠田、越光、河邉〉 発表：「抗がん剤（シクロフォスファミド;CPA）投与によるマウス妊孕能への影響」（小池恵） 「不妊治療施設におけるインシデントレポート～発生状況と対策についての分析～」（手島しおり）
11.23	セミナー医療と社会 第58回講演会（青森）　参加〈下川、城戸、大津、院長〉 講演：「生殖医療と社会－生まれてくる子どものために－」（院長）
11.30	第２回　第９期オリーブの会　参加者7名
11.30	子育ての応援とゼロ歳児からの虐待防止を目指して（大分）　参加〈長木、大津、坂本、北田、院長〉
12. 3	株式会社バズラボ フリーマガジン『ジネコ』春号（Vol.21）取材
12. 7	日本卵子学会編集委員会（東京）　参加〈大津〉
12. 9	金沢医科大学（石川）より1名ご来院
12.10	第177回 聖書の学び　日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
12.13	「ヘルシースタートおおいた」推進のための産科連絡会議（大分）　参加〈後藤裕〉
12.14	第198回 体外受精教室　参加者56名　参加〈足立小、下川、熊迫、岡田、松土、関、越光、稗田〉
12.14	忘年会
12.17	ISO9001マネジメントレビュー
12.21	第76回　新患教室　参加者81名　参加〈大城、越名、下川、後藤香、戸高、坂本、足立直、斉高、篠田、稗田〉
12.22	みんなでフォーラム「本気で語ろう 思春期の性のこと」（福岡）　参加〈工藤、足立小、佐藤、岡田、関〉
12.22	ART により出生した児の長期予後調査に関する検討会（東京）　参加〈院長〉
12.23	日本生殖医学会2013年度第３回生殖医療従事者講習会（東京）　参加〈院長〉
12.23	公開シンポジウム「着床前受精卵遺伝子スクリーニング（PGS）を考える」（東京）　参加〈院長〉
12.24	クリスマス会　参加〈患者9名、職員30名、牧師1名、他12名〉

論文一覧

2013　「非配偶者間生殖医療（提供精子人工授精：AID）の実態と今後の課題
－ AID で生まれた方々の意識調査をもとにして－」（院長）
日本受精着床学会雑誌 30(1): 146-159, 2013

「胚移植不能・全胚凍結不能時の説明における胚培養士の関わり方」（城戸京子）
日本受精着床学会雑誌 30(2): 255-260, 2013

「Respiratory Activity of Single Blastocysts Measured by Scanning Electrochemical Microscopy: the Relationship between Pre-freezing and Post-warming」（熊迫陽子）
J. Mamm. Ova Res. 30(1): 30-35, 2013

著書（共著）一覧

2013　「ヒト体外受精における受精卵の質評価のため呼吸量測定を行う臨床的意義」（院長）
『日本胚移植学雑誌』第35巻1号（日本胚移植研究会）

「不妊治療終結におけるカウンセリング」（上野桂子／院長）『産科と婦人科』第80巻11号（診断と治療社）

「不妊症患者の出生前診断についての意識調査」（院長）『産婦人科の実際』第62巻11号（金原出版株式会社）

「生殖医療（不妊カウンセリング）」（上野桂子／院長）『臨床心理学』増刊号第5号（金剛出版）

「Ⅱ．一般的不妊診療の実際 1. ルチンテストの再考」（院長）
「Ⅱ．一般的不妊診療の実際 15. 機能性不妊」（院長）『新版 今日の不妊診療』（医歯薬出版株式会社）

翻訳一覧

「不妊症（原題：Infertility）」（院長）『障害の百科事典（原書：Encyclopedia of Disability）』（丸善出版株式会社）

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

1993年から、セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、国内外から著名な先生方を講師にお招きし、当院多目的ホールにて開催している。

※2013年は、第31回日本受精着床学会総会・学術講演会主催にあたり開催せず

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

2013年4回開催　参加のべ人数290名

受診中の患者さん以外にも広く不妊治療を知ってもらう目的で、3ヵ月に1回（年4回）外部の会場で、参加者の方がリラックスして聞いていただけるように、コーヒーとケーキを用意し開催している。

院長が詳しく説明した後、泌尿器科（協力病院）の医師による男性不妊の治療についてのお話、臨床心理士による心のお話、看護師による診療やサポート体制、受付スタッフによる助成金等のお話を行っている。また、当院OG（当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方）のお話もあり、OG自身の治療歴や、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって乗り越えたのか、悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの立場からお話をしていただけるため、毎回好評である。

新患教室

2013年8回開催　参加のべ人数540名

当院の多目的ホールにて、初診時の検査から体外受精までの一連の流れを、院長が詳しく説明した後、看護師から診療やサポート体制についての説明を行っている。また、培養室、受付、臨床心理士からのお話も行っている。

早い時期に夫婦で参加するため、夫婦二人で取り組む意識が強くなり、その後の治療に対する理解にも役立っている。

体外受精教室

2013年11回開催　参加のべ人数675名

初めて体外受精を受ける患者さん向けに、治療の過程やスケジュール、体外受精前後の体の変化など、院長がわかりやすく説明している。その後、看護師、培養室、受付、臨床心理士から説明を行っている。

「受精は神秘的なもので、それに関わる体外受精はとても繊細な技術で病院側の誠意と努力をとても強く感じました」「不安に思っていたことが軽減され、不安なく体外受精に進むことができそうです」「最後の先生の夫婦仲良くが原点という言葉には胸うたれました」など、患者さんからの率直な感想も聞かれる。

教室はご夫婦での参加としているため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療のステップアップにも役立っている。

新患オリエンテーション

初診時診察終了後に、不妊治療に対する教育を受けた看護師が、写真や図を使い、1時間程度時間をかけ、患者さんへの病状説明や、今後の治療の進み方などの説明・相談を行っている。患者さんの質問や不安に対して個別に対応も行っており、好評である。

心理専門相談室

在室日：月曜日～土曜日
（予約制および随時受付）

2001年より臨床心理士が治療における迷い、気分の落ち込み、夫婦関係、または日常生活のストレスなどのカウンセリングを行っている。

今抱えている悩みや不安を受け止め、一緒に考えながら、患者さんが少しでも安心して治療が受けられるようなサポートを心がけている。

ガーネットサークル

2013年3回開催　参加のべ人数13名

当院で治療後、出産へと至った方にお願いして、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。その都度テーマを変え、対象を絞り、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるように心がけている。

参加者より、「治療に前向きになれた」との声も聞かれ、経験者の話を聞くことにより、患者さんの不安を取り除き、悩んでいるのは自分ひとりではないと再認識できる貴重な会となっている。

オリーブの会（第1～9期）

2013年8回開催（第8期・第9期）　参加のべ人数47名

40歳以上の患者さんの孤独感や不安を軽減させるため、また治療終結への思いを共有できる時間と場を提供することを目的として開催している。

同じ年代の同じメンバーに、臨床心理士と看護師を交え、治療のことや日頃感じていることなど、お茶を飲みながら、リラックスした自由な話し合いの場となっている。

治療を終結した方を囲む会

2013年1回開催　参加人数10名

不妊治療の終結を決断し、ご夫婦だけの生活を選択された方に、現在治療中の患者さんに対して、治療当時の思いや、治療終結に至るまでの決断の経緯、現在の心境などのお話をしていただいている。

ご夫婦で参加される方もおり、質問や意見交換も活発に行われる。治療中の患者さんにとって今後の治療や、これからの二人の生活を考えることができる貴重な時間となっている。

院長相談

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

治療内容・治療計画・治療終結に向けての相談など、治療をする上で迷ったり、悩んだ時、普段の診療では聞きにくいことを、他の患者さんを気にすることなくゆっくりと相談することができる。

なんでも相談

看護部

不妊治療を行う上での不安・ストレスや悩み、治療についての質問、体外受精などのステップアップに関するアドバイスなど、多岐にわたる相談を受ける場を設けている。（予約制）

オリエンテーションルームで個別に相談ができるため、他者に話を聞かれる心配をせず、ゆったりと相談することができる。

なんでも相談

培養室（胚培養士資格保持者による相談）

月曜日～土曜日の11：00～12：00（予約制）

体外受精における不安や疑問等の相談を随時受け付けている。

その他

外来相談係（看護部）

医師の診察時に聞けなかった質問や、細やかな訴えなどを傾聴し、説明・相談を行っている。また患者さんの電話での問い合わせにも対応している。

手術前説明（看護部）

手術を予定している方に、手術前の問診・各種検査（胸写・心電図・肺機能検査・血液検査）を行い、パスを用いて入院から退院までのスケジュールの説明を行う。

手術前説明（院長）

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

手術予定の1週間前までにご夫婦でご来院いただき、麻酔方法・手術内容について説明を行う。

手術後説明（院長）

月・水・金曜日の夕方診療時（予約制）

手術時の映像（動画）を見ながらご夫婦に、結果説明・今後の治療方針・治療計画の説明を行う。

ARTオリエンテーション（看護部）

体外受精に初めて入る患者さんに、看護師が個別に治療内容やスケジュールを説明する。

ARTオリエンテーション（培養室）

（胚培養士資格保持者による相談）

体外受精初回時に体外受精の方法、流れについて説明を行う。

腹腔鏡検査での未熟卵子体外成熟培養体外受精胚移植について説明を行う。

ARTに関する説明（培養室）

（胚培養士資格保持者による相談）

体外受精胚移植または融解胚移植前に、説明を行う。

全胚凍結した場合、凍結した胚の説明を行う。

体外受精後、移植または全胚凍結ができなかった場合に説明を行う。

ART結果説明（看護部）

院長よりARTの結果についての説明のあと、今後の治療の流れについての説明を行う。

全体朝ミーティング

毎朝、診療開始前に外来にて、職員全員で朝ミーティングを行っている。受付より当日の診察内容毎の予約患者数、研究室・培養室より当日の採卵・胚移植・精液検査の予定、心理専門相談室より当日の相談の予定、看護部より当日の手術予定について報告している。職員全員が参加し、情報を共有することにより、全員が一日の診療の流れを把握することに役立ち、士気を高めることに繋がっている。

院内研修・ミーティング

毎週火曜日の午後、職員全員が参加して行っている。研究室・培養室より、研究結果の報告、海外論文詳読、各部署より「ヒヤリ・ハット」を報告し、今後のために協議している。また、その週に治療を受ける患者さんについて治療方針を話し合うなど、4時間程のミーティングを行っている。このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、全員が発言する機会を作っている。

培養室朝ミーティング

毎朝培養室にて、院長を交え、当日の採卵予定患者の検査結果、胚移植予定者、培養中の胚の観察結果報告、当日の業務の流れの確認を行っている。

培養室ミーティング

1ヵ月に2回、培養室の職員全員で、日常業務の問題点や改善点、各々研究テーマについての話し合い、学会報告、基礎知識に関する勉強会を行っている。

スタッフ配置

院　　長	宇津宮隆史
医　　局	河邉史子、甲斐由布子
研究室・培養室	**大津英子、*長木美幸、*熊迫陽子、*後藤香里、 *,†城戸京子、*佐藤晶子、*,†小池　恵、後藤厚子、下川侑樹乃
看　護　部	†後藤裕子、越光直子、†篠田多加子、†関こずえ、赤嶺佳枝、 斉高美穂、二宮　睦、松元恵利子、足立直美、亀井里砂、 松土留美、岡田清美、川村智恵、北田奈津枝、†手島しおり、 坂本順子、戸髙里美、下馬場優子、下原佐由里
心理専門相談室	稗田真由美（臨床心理士）
総　務　部	宇津宮富美子
受　　付	越名久美、足立小百合、青木麻有、大城麻依、藤沢奈津美
情報処理室	工藤由香、安部里美、山路美和
厨　　房	矢野千恵美、油野亜由美

＊＊：日本卵子学会および日本生殖医学会認定生殖補助医療管理胚培養士
＊：日本卵子学会認定生殖補助医療胚培養士
†：日本生殖医療心理カウンセリング学会認定生殖医療相談士

病院概要

名　　称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所
開設年月日	1992年6月3日
住　　所	〒870-0823 大分市東大道1丁目4番5号 TEL 097-547-1234 FAX 097-547-1221 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/ http://www.st-luke.jp/imode.htm（携帯電話用）
許可病床数	13床
心理専門相談	総数43名 常勤医 2名　臨床心理士 1名 非常勤医 1名　総務部 1名 研究室・培養室 5名　受　付 5名 検査室・培養室 4名　情報処理室 3名 看護師 12名　調理士 1名 准看護師 7名　栄養士 1名
診療時間 （受付予約制）	月・水・金：8：30～11：30 13：30～15：30 17：00～18：30 火・木・土：8：30～11：30 （祝日を除く）

〈本年報の集計もSarahBaseを用いました〉

St.Luke 2013年度年報

2014年6月　発行

発　行：医療法人セント・ルカ
セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編　集：宇津宮　隆史
〒870-0823　大分市東大道１丁目４番５号
TEL 097-547-1234　　FAX 097-547-1221
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
http://www.st-luke.jp/

St.Luke
2013